

菱刈鉱山におけるサンドビック製自動走行重機の導入開始について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：野崎 明）は、菱刈鉱山（鹿児島県伊佐市）において、鉱石の積み込み・運搬を行う Sandvik 製 TORO™ LH307 地下ロードホールダンプ（以下、「LHD」）の自動走行と地上からの遠隔操作システムを導入しました。自動走行 LHD は、海外の坑内掘（地下にトンネルを掘って鉱石を採掘する）鉱山で既に活用事例はありますが、菱刈鉱山のような小断面坑道の鉱山現場への導入はアジア初となります。



菱刈鉱山に導入された Sandvik 社（スウェーデン）の TORO™ LH307 地下ローダー



コントロール室内の AutoMine®操縦席の様子（地上からの遠隔操作）

当社は「2030年のありたい姿」において、「高い技術力で資源を生み出す企業」を目指しています。KPIのひとつに「新技術導入による生産性改善」を掲げ、菱刈鉱山では坑内外の情報インフラ（Wi-Fi）整備や、重機の無人化、リモート化の推進など、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の導入に取り組んでいます。坑道の断面積による重機サイズの制限など坑内掘鉱山特有の制約条件や課題がある中、坑内に Wi-Fi を敷設する工事や、自動運転に必要な機器の導入、調整作業を 11 月に完了し、本格稼働に向けた現場での稼働試験を 12 月より開始しました

坑内への Wi-Fi 敷設は各種 DX 推進の基幹となるため、次年度以降も引き続き工事を進め、他の重機の自動化や生産管理システムの試験および導入も順次行っていく予定です。こうした取り組みを通じて、安全性の向上やコスト削減、働き方改革等を実現し、菱刈鉱山の

サステナビリティを重視した長期安定操業体制の確立に努めてまいります。

以 上

本件に関するお問合せ先

住友金属鉱山株式会社 広報IR部 東京都港区新橋 5-11-3 新橋住友ビル

TEL: 03-3436-7705 Eメール: smm_koho@smm-g.com